

注3

大学番号：私143

[平成29年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可

金沢星稜大学 人文学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人稲置学園
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学事務局

職名・氏名 フクキョクチョウ 副局長 コヤマ 小山 ヒロユキ 裕之

電話番号 076-253-3924

（夜間）

F A X 076-253-3995

e-mail koyama@seiryu.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

人文学部

<国際文化学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 留意事項等に対する履行状況等	21
7. その他全般的事項	24

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人稲置学園

(2) 大学名

金沢星稜大学

(3) 大学の位置

〒920-8620

石川県金沢市御所町丑10番地1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イナオキ シンヤ) 稲置 慎也 (平成28年4月就任)		
学長	(ミヤザキ マサフミ) 宮崎 正史 (平成26年4月就任)		
学部長	(カワムラ ヨシハル) 川村 義治 (平成28年4月就任)		
学科長	(オカモト ヨシカズ) 岡本 芳和 (平成28年4月就任)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
人文学部 国際文化学科 学士(人文学)	文学関係	4年	75人	- 年次人	300人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	75 () []	() []	75 () []	() []	0.48倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	329 -	- -	305 -	- -		
受験者数	() []	() []	() []	() []	327 -	- -	300 -	- -		
合格者数	() []	() []	() []	() []	101 -	- -	137 -	- -		
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	36 -	- -	37 -	- -		
入学定員超過率 B/A					0.48		0.49			

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	36 - -	- - -	37 - -	- - -	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	36 -	- -	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	36 -	-	73 -	-	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		0.00 %
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	0人	平成27年度	人	人		0.00 %
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	36人	0人	平成28年度	人	人		0.00 %
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	37人	0人	平成29年度	人	人		0.00 %
合計	73人	0人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	観光学系	Tourism Studies	3①	2		1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	集中
		Hospitality	3①	2			1						
		Leisure Studies	3②	2									
		Tourism Practice	3②	1									
		Tourism Culture Practice	3②	2									
		Tourism Industry	3③	2				1					
		Tourist Destinations and History	3③	2									
		Hospitality Practice	3③	2									
		Culture and Society in Tourism	3④	2									
		Tourism Policy	3④	2		1							
		Tourism and Regional Studies	3④	2									
		Tourism Management	3④	2				1					
		Tourism Information	4①	2				1					
	International Development	4①	2										
	発展科目	英語学系	English Linguistics	2②3②	2		1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
			Practical English Grammar	2②3②	2		1						
			Interpretation Practice I	2②3②	2								
			Phonetics	2③3③	2								
			Business English I	2③3③	2								
			Translation Practice I	2③3③	2								
			Business English II	2④3④	2								
			Interpretation Practice II	2④3④	2								
			Translation Practice II	2④3④	2								
			Practice in English Linguistics	2④3④	2		1						
			Tourism English I	3①	2			1					
			English Teaching Methodology I	3①	2		2						
			Tourism English II	3②	2			1					
English Teaching Methodology II			3②	2		2							
English Teaching Methodology III	3③	2		2									
English Teaching Methodology IV	3④	2		2									
Cross-cultural Understanding	3④	2		1									
	小計(53科目)		0	105	0	6	3 4	1 9	0	0	兼15		
専門科目	アカデミックイングリッシュ	Global Issues	2②3①②	2					1			兼2 兼3	28年6月加藤隆宏講師就任辞退により桑野萌講師に変更(29年3月変更書提出済)(29)
		Debate	2③3②③	2			1						
		Academic Writing	3③	2		1							
		Thesis Writing	3④4①②③	2		1							
		小計(3科目)		0	8	0	1	1 9	1 9	0	0	兼2 兼3	
	ゼミナール	Major Study Seminar I	3①②③	3			4	5 6	1 1				27年10月高橋裕子准教授就任辞退、29年4月桑野萌講師就任(27年12月教員審査済)昨年度記載漏れ(29)
		Major Study Seminar II	4①②③	3			4	5 6	1 1				
		Graduation Thesis	4④	2			4	5 6	1 1				
小計(3科目)			8	0	0	4	5 6	1 9	0	0	0		
	専門科目合計(66科目)		20	0	0	4	5 6	1 9	0	0	兼15		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	計	教授	准教授	講師	助教	助手	
教職科目	教職入門(中等)	1③ 2③			2						兼1 兼1	時間割調整により変更(29) オムニバス方式に変更(28) 時間割調整により変更(29) オムニバス方式に変更(28) 時間割調整により変更(29) 集中 オムニバス方式に変更(28) 集中 集中 複数体制の授業に変更(28)
	教育学概論(中等)	2①			2						兼1	
	障害者教育	2② 2④			2						兼1 兼3	
	教育心理学(中等)	2③			2						兼+	
	生徒・進路指導論(中等)	2③ 2③			2						兼1 兼2	
	道德教育の理論と方法(中等)	2④			2						兼+	
	教育相談の理論と方法(中等)	2④			2						兼1	
	教育社会学(中等)	3①			2						兼1	
	介護等体験(事前・事後の指導を含む)	3①			2						兼1	
	特別活動の理論と方法(中等)	3①			2						兼2	
	教育課程論(中等)	3②			2						兼+	
	教育方法論(中等)	3②			2						兼1	
	中等教育実習・事前事後の指導	3③4①			2						兼1	
	中等教育実習Ⅰ	3③			2						兼1	
	中等教育実習Ⅱ	3③4①			2						兼1	
	教職実践演習C(中・高)	4③			2	1					兼1	
小計(16科目)	-	0	0	32	9	0	0	0	0	0	兼12 兼8	
合計(133科目)	-	22	213	32	6	5 6	1 0	0	0	0	兼47 兼43	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
10	107	16	133	10	107	16	133	
[0]	[0]	[0]	[0]					

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{104} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【校舎敷地】 金沢星稜大学女子短期 大学部（必要面積3,000 ㎡）と共用 【借地面積】 【校舎敷地】 借地面積：4,573㎡ 平成26年5月1日より 借用期間：30年 借地面積：1,359㎡ 平成27年1月1日より 借用期間：30年 借地面積：671㎡ 平成27年1月1日より 借用期間：22年 借地面積：330㎡ 平成27年1月1日より 借用期間：30年 【運動場用地】 借地面積：3,168㎡ 平成26年5月1日より 借用期間30年 借地面積：1,413㎡ 平成27年1月1日より 借用期間30年 【その他】 借地面積：4,959.83㎡ 平成27年4月1日より 借用期間2年 借地面積：303㎡ 平成26年4月1日より 借用期間2年 借地面積計 16,776.83㎡			
	校 舎 敷 地	-㎡	35,001.00㎡	-㎡	35,001.00㎡				
	運 動 場 用 地	-㎡	34,312.79㎡	-㎡	34,312.79㎡				
	小 計	-㎡	69,313.79㎡	-㎡	69,313.79㎡				
	そ の 他	-㎡	6,599.83㎡	-㎡	6,599.83㎡				
合 計	-㎡	75,913.62㎡	-㎡	75,913.62㎡					
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	金沢星稜大学女子短期 大学部（必要面積 2,350㎡）と共用			
		3,584.50㎡ (3,584.50㎡)	23,419.50㎡ (23,419.50㎡)	2,003.20㎡ (2,003.20㎡)	29,007.20㎡ (29,007.20㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室 38室	演 習 室 34室	実験実習室 7室	情報処理学習施設 6室 (補助職員 1人)	語学学習施設 1室 (補助職員 一人)	大学全体		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 人文学部 国際文化学科			室 数 12 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 【うち外国書】 冊	学術雑誌 【うち外国書】 種	電子ジャーナル 【うち外国書】	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	人文学部	1,468 [181] (1,468 [181])	23 [15] (22 [15])	8 [8] (8 [8])	12 0	() ()	() ()		
	計	1,468 [181] (1,468 [181])	23 [15] (22 [15])	8 [8] (8 [8])	12 0	() ()	() ()		
(6) 図 書 館		面 積 1,912.07㎡	閱 覧 座 席 数 270	収 納 可 能 冊 数 203,570					
(7) 体 育 館		面 積 4,974.44㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 星稜スポーツセンター（剣道場・ STUDIO・空手道場等を含む）		テ ニ ス コ ー ト 6 面	大学全体			
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	設備購入費：追加設置 設備発生による変更が あったため(28) 図書購入費：契約にお いて当初見積内容に変 更があったため(28) 図書費には、電子ジャー ナルの整備費(運用35含 む)を含む。
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	5,489千円	2,367 2,750 千円	1,405千円	
	共同研究費等	208千円	208千円	設備購入費	60,770 23-69千円	1,080千円	3,870千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,302千円	第2年次 1,182千円	第3年次 1,182千円	第4年次 1,182千円	第5年次 - 千円	第6年次 - 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	金沢星稜大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	26年度入学定員増(20)
	年	人	年次人	人		倍			
大学院 経営戦略研究科	2	10	-	20	修士(経済学・経営学)	0.6	平成14年度	石川県金沢市御所町丑10番地1	
経済学部									
経済学科	4	230	-	920	学士(経済)	1.17	昭和42年度	同上	
経営学科	4	150	-	600	学士(経営学)	1.27	平成16年度	同上	
人間科学部									
スポーツ学科	4	60	-	240	学士(人間科学)	1.33	平成19年度	同上	
こども学科	4	60	-	220	学士(人間科学)	1.18	平成19年度	同上	
人文学部									
国際文化学科	4	75	-	75	学士(人文学)	0.49	平成28年度	同上	
大学の名称	金沢星稜大学女子短期大学部								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経営実務科	2	150	-	300	短期大学士(経営)	1.19	昭和54年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<人文学部 国際文化学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (学部長)	カムラ ヨシハル 川村 義治 (62)	平成28年4月	Phrase and Expression Training I Phrase and Expression Training II English Teaching Methodology I ※ English Teaching Methodology II ※ English Teaching Methodology III ※ English Teaching Methodology IV ※ English Teaching Methodology V ※ Cross-cultural Understanding Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis	専	教授 (学部長)	カムラ ヨシハル 川村 義治 (62)	平成28年4月	Phrase and Expression Training I Phrase and Expression Training II English Teaching Methodology I ※ English Teaching Methodology II ※ English Teaching Methodology III ※ English Teaching Methodology IV ※ Cross-cultural Understanding Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis 教職実践演習C(中・高)	27年11月教職課程認定申請時の指摘により、オムニバス授業に変更のため担当科目追加(28) 28年6月に変更書提出予定 28年8月判定可(29)
専	教授	ピーターセン マーク フレデリック PETERSEN MARK FREDERIC (70)	平成29年4月	Reading Skills III Writing Skills III Practical English Grammar Academic Writing Thesis Writing						
専	教授	ササケ トモオ 捧 富雄 (69)	平成30年4月	Tourism Studies Tourism Policy Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis						
専	教授	ヤマダ(イリモト) 効コ 山田(煎本) 孝子 (68)	平成28年4月	異文化コミュニケーション論 /Intercultural Communication 比較文化 Language and Culture Religion and Ecology						
専	教授	ロバートソン ジェームス アール ROBERSON JAMES EARL (60)	平成28年4月	基礎ゼミナール 日本社会と文化 Japanese Folk Culture Contemporary Japanese Culture Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis						
専	教授	オカモト ヨシカス 岡本 芳和 (42)	平成28年4月	Writing Skills I Writing Skills II English Linguistics Practice in English Linguistics English Teaching Methodology I ※ English Teaching Methodology II ※ English Teaching Methodology III ※ English Teaching Methodology IV ※ Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis						
専	准教授	オカ タツヤ 岡 達哉 (48)	平成30年4月	Hospitality Tourism Industry Tourism Management Tourism Information Tourism English I Tourism English II Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis						
専	准教授	タナカ フジミ 田中 富士美 (48)	平成28年4月	International Testing I International Testing II Debate Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis	専	准教授	タナカ フジミ 田中 富士美 (48)	平成29年4月	International Testing I International Testing II International Testing III International Testing IV Debate Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis	担当科目追加 29年3月変更審査提出済(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	カハシユウコ 高橋 優子 (47)	平成28年4月	基礎ゼミナール 宗教学/Religious Studies ※ 比較文化 Religion and Culture ※ Christianity and Culture Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis	専	講師	クワノモエ 栗野 萌 (34)	平成29年4月	基礎ゼミナール 宗教学/Religious Studies ※ 比較文化 Religion and Culture ※ Christianity and Culture Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis	平成27年10月 高橋優子准教授就任辞退(28) 27年12月教員審査済(28) 本人妊娠の為就任年月を29年4月に変更(28)
専	准教授	ハイヤーアヒムウヘ Bayer,Achim Uwe (45)	平成28年4月	基礎ゼミナール 宗教学/Religious Studies ※ 比較文化 Religion and Culture ※ Buddhism and Culture Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis						
専	准教授	オカワヒサシ 小河 久志 (42)	平成30年4月	基礎ゼミナール 宗教学/Religious Studies ※ Studies on Multicultural Synthesis Religion and Culture ※ Islam and Culture Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis						
専	准教授	リンチギャビンリー LYNCH GAVIN LEIGH (39)	平成28年4月	Conversation Skills I Conversation Skills II Phrase and Expression Training II Major Study Seminar I Major Study Seminar II Graduation Thesis						
兼任	教授	サトウユキエ 佐藤 幸江 (64)	平成30年4月	分課等体験(事前・事後の指導を含む)						
兼任	教授	タケケンイチ 高 賢一 (63)	平成29年4月	教育心理学(中等) 教育相談の理論と方法(中等)						27年11月教職課程認定申請時の指摘により、オムニバス方式に変更し担当者追加(28)
					兼任	教授	コウノトシヒロ 河野 俊寛 (58)	平成29年4月	教育心理学(中等)	
					兼任	講師	アサカワアツシ 浅川 淳司 (31)	平成29年4月	教育心理学(中等)	
兼任	教授	ムライマサオ 村井 万寿夫 (60)	平成29年4月	生徒・進路指導論(中等) 教育課程論(中等) 教育方法論(中等)						
兼任	教授	イケダユキオ 池田 幸應 (59)	平成31年4月	教職実践演習C(中・高)						
兼任	教授	イワオカケンスケ 岩岡 研典 (59)	平成28年4月	スポーツ科学演習						
兼任	教授	モトヤスヒロシ 本康 宏史 (58)	平成28年4月	歴史学 金沢文化演習						
兼任	教授	カワイショウジ 河合 正二 (57)	平成28年4月	日本国憲法 法学	兼任	教授	ソカチハル 曾我 千春 (51)	平成29年4月	日本国憲法	29年4月 所属学部の都合により担当者変更(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	イノウエ ヨシト 井上 好人 (56)	平成28年4月	社会学 教育学概論(中等) 教育社会学(中等) 特別活動の理論と方法(中等)	兼任	教授	イノウエ ヨシト 井上 好人 (56)	平成28年4月	社会学 教育学概論(中等) 教育社会学(中等) 特別活動の理論と方法(中等)	27年11月教職課程認定申請時において不可の為、担当者を変更しオムニバス方式に変更(28)
					兼任	教授	ムライ マスオ 村井 万寿夫 (60)	平成29年4月	特別活動の理論と方法(中等)	
					兼任	講師	マモリ ヒデトシ 衛 英敏 (59)	平成30年4月	特別活動の理論と方法(中等)	
兼任	教授	ハバ ハジム 馬場 治 (56)	平成28年4月	日本文学						
兼任	教授	イノウエ アキヒロ 井上 明浩 (55)	平成29年4月	障害者教育						
兼任	教授	ツジ ケンイチ 辻 建一 (55)	平成28年4月	Reading Skills I Reading Skills II 英米文学-English and American Literature American Society and Culture						
兼任	教授	シミス カスヒサ 清水 和久 (53)	平成28年4月	教職入門(中等) 中等教育実習・事前事後の指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ						
兼任	教授	ナカムラ アケミ 中村 朱美 (53)	平成28年4月	日本文学						
兼任	教授	キンモト ヒデカス 岸本 秀一 (51)	平成28年4月	経営学						
兼任	教授	ナガサカ マサオ 永坂 正夫 (48)	平成28年4月	自然科学概論 環境学						
兼任	教授	オクダ テツヒト 奥田 鉄人 (45)	平成28年4月	健康・スポーツ科学概論						
兼任	准教授	ジヨマダル ナシル ジヨマダル ナシル (59)	平成31年4月	International Development	兼任	教授	ジヨマダル ナシル ジヨマダル ナシル (59)	平成31年4月	International Development	平成28年4月 昇任により職名変更(28)
兼任	准教授	コイノ チヒロ 小磯 千尋 (58)	平成28年4月	基礎ゼミナール 宗教学/Religious Studies 文化人類学/Cultural Anthropology ワールドトピックス Gender and Contemporary Society Food and Culture Clothing and Culture						
兼任	准教授	モリ ノブエ 森 延江 (54)	平成28年4月	Phrase and Expression TrainingⅢ Phrase and Expression TrainingⅣ Translation PracticeⅠ Translation PracticeⅡ						
兼任	准教授	ササキ ヤスナリ 佐々木 康成 (45)	平成28年4月	心理学 情報リテラシー 情報学	兼任	教授	ササキ ヤスナリ 佐々木 康成 (46)	平成29年4月	心理学 情報リテラシー 情報学	平成29年4月 昇任により職名変更(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	エダムラ ショウヘイ 枝村 祥平 (39)	平成28年4月	哲学/Philosophy 論理学/Logic 倫理学/Ethics	兼任	教授	エダムラ ショウヘイ 枝村 祥平 (40)	平成29年4月	哲学/Philosophy 論理学/Logic 倫理学/Ethics	平成29年4月 昇任により職名変更(29)
兼任	講師	サカイ キコ 坂井 紀公子 (48)	平成30年4月	基礎ゼミナール 文化人類学/Cultural Anthropology 人文地理学/Human Geography African Society and Culture						
兼任	講師	サカイ キコ 坂井 紀公子 (46)	平成28年4月	人文地理学/Human Geography						
兼任	講師	カウ トカ 加藤 隆宏 (44)	平成30年4月	基礎ゼミナール Asian Society and Culture Hinduism and Culture Thought and Culture Global Issues			後任未定		基礎ゼミナール Asian Society and Culture Hinduism and Culture	他に担当者が複数いるため支障なし(29) 平成28年6月他大学就任のため辞退 平成30年4月兼任教員採用予定(29)
					専	講師	クノ モエ 栗野 萌 (35)	平成30年4月	Thought and Culture Global Issues	平成28年6月他大学就任のため辞退 29年3月変更審査提出済(29)
兼任	講師	サノ ヒロシ 佐野 浩祥 (40)	平成30年4月	Leisure Studies Tourism Culture Practice Tourist Destinations and History Culture and Society in Tourism	兼任	准教授	サノ ヒロシ 佐野 浩祥 (40)	平成30年4月	Leisure Studies Tourism Culture Practice Tourist Destinations and History Culture and Society in Tourism	平成28年4月 昇任により職名変更(28)
兼任	講師	コニシ ケンゴ 小西 賢吾 (36)	平成28年4月	基礎ゼミナール 宗教学/Religious Studies 文化人類学/Cultural Anthropology 社会調査論 フィールドトピックス Field Research Practice Noto Field Work Globalization and Local Culture Global Issues						
兼任	講師	カスミ アツシ 川澄 厚志 (35)	平成28年4月	観光論入門/Tourism Tourism Practice Hospitality Practice Tourism and Regional Studies						
兼任	講師	イシノ タカヤ 石野 卓也 (34)	平成28年4月	統計学 ※	兼任	准教授	イシノ タカヤ 石野 卓也 (34)	平成28年4月	統計学 ※	平成28年4月 昇任により職名変更(28)
兼任	講師	カワモト サトシ 川本 智史 (36)	平成30年4月	基礎ゼミナール 宗教学/Religious Studies ※ Ethnic Minorities and Their Cultures Art and Culture Housing and Culture Global Issues						
					兼任	講師	マイケル キーナン Micheal Keenan (39)	平成29年4月	Writing Skills I Writing Skills II Writing Skills III Writing Skills IV	担当者の追加(29)
兼任	講師	クラッスン マーシャル Klassen Marshall (34)	平成28年4月	Conversation Skills III Conversation Skills IV Writing Skills III Writing Skills IV						
兼任	講師	ハナダ シンイチ 花田 真一 (34)	平成28年4月	統計学 ※	兼任	准教授	ハナダ シンイチ 花田 真一 (34)	平成28年4月	統計学 ※	平成28年4月 昇任により職名変更(28)
兼任	助教	マルイ カスマサ 丸井 一誠 (34)	平成28年4月	健康科学演習						
兼任	助教	チョウ リン 張 琳 (30)	平成28年4月	経済学/Economics	兼任	講師	チョウ ミヨウ 張 淼 (31)	平成29年4月	経済学/Economics	平成29年3月退職により就任辞退 担当の変更(29)

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	講師	コサカ オサム 小坂 修 (69)	平成30年4月	European Society and Culture						
兼任	講師	ハガ タモン 羽賀 多聞 (67)	平成28年4月	基礎数学	兼任	講師	ハノ カズオ 羽野 和夫 (73)	平成29年4月	基礎数学	平成29年3月 就任辞退により担当の変更 (29)
兼任	講師	キムラ ハルヒコ 木村 春彦 (64)	平成28年4月	コミュニケーション概論			後任未定			平成29年3月 担当辞退により、平成29年11月 に兼任教員にて担当予定(29)
兼任	講師	ホシタ ミル 本田 実 (64)	平成29年4月	道徳教育の理論と方法(中等)						27年11月教職課程認定申請時の 指摘により、担当者を追加し オムニバス方式に変更(28)
					兼任	講師	マツシ タヨウヘイ 松下 良平 (57)	平成29年4月	道徳教育の理論と方法(中等)	
兼任	講師	マルヤマ アツシ 丸山 敦 (62)	平成28年4月	歴史学						
兼任	准教授	ヨコノ ナルミ 横野 成美 (57)	平成28年4月	International Testing III International Testing IV Interpretation Practice I Interpretation Practice II						
兼任	講師	イケナカ マサミ 池中 雅美 (55)	平成29年4月	Phonetics						
兼任	講師	リチャード ブラリアンカーティス Richard Braian Curtis (55)	平成29年4月	Business English I Business English II						
兼任	講師	アオキ タツト 青木 賢人 (46)	平成28年4月	自然地理学						
兼任	講師	キムラ タヒロ 木村 高宏 (42)	平成28年4月	政治学						
兼任	講師	サウ フコ 佐藤 福子 (42)	平成28年4月	Reading Skills III Reading Skills IV						

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
6	6	0	0	12	5	3	1	0	9	6	5	1	0	12
4	4	0	0	8						[]	[Δ1]	[1]	[]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	2 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	准教授	高橋 優子	必修	基礎ゼミナール	①	他大学就任のため就任辞任（28）	
			選択	宗教学/Religious Studies	①		
			選択	比較文化	①		
			選択	Religion and Culture	①		
			選択	Christianaty and Culture	①		
			必修	Major Study Seminar I	①		
			必修	Major Study Seminar II	①		
合計（A）			後任補充状況の集計（B）				
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）	①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	4 科目	必修	4 科目	必修	0 科目
		選択	4 科目	選択	4 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	8 科目	計	8 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計（C）			後任補充状況の集計（D）				
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）	①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	4 科目	必修	4 科目	必修	0 科目
		選択	4 科目	選択	4 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	8 科目	計	8 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)		後任補充状況の集計 (B) + (D)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修 : 科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択 : 科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由 : 科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計 : 科目	計	科目	計	科目	計	科目

(注) ・ 就任辞退 (未就任) 及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」後任者は辞退者が担当予定していた全授業科目を引き継ぎ担当することとなり、そのすべての授業科目について「可」の判定を受けて、シラバス及び時間割はそのまま引き継ぐことができ、それぞれ後任者の氏名を入れることができた。

「学生への周知方法」入学者が少数のため未開講としたことにより周知の必要性がなくなった。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (28年4月)</p>	<p>1. 学生の英語力に応じグレード別にクラス編成し、IELTS6.0点という到達目標を設定しているが、英語力の低い学生も含め全ての学生がこの到達目標を達成できるよう、以下の点について学習効果が最大限発揮できるよう留意し、必要であれば計画を修正すること。</p> <p>(1)「英語カステップアッププログラム(ESP)」について、グレード別の具体的な指導内容及びプログラムの全体像について整理し、学生に広く周知すること。</p> <p>(2)ESPによる履修を経ても次のグレードクラスへのステップアップが難しい場合にe-learning等学生が自学自習できる設備を整備し、正課外での学生の自発的な英語活用能力の向上を図るとしているが、これらの設備を導入するに当たり必要な機器やシステム等について十分に検討し、学生に広く周知すること。</p>	<p style="text-align: center;">留意事項</p> <p>(1)入学直後の1泊2日新入生研修では、「英語カステップアッププログラム(ESP)」に関する説明を行った。まず新入生に学習の心構えを説きESPの全体的な仕組みや各レベルの内容、学習の仕方を説明した。また、各ター終了後には、毎回全学生を対象にガイダンスを開いて学習成果を振り返り、次の達成目標とその方法を確認する。さらに2年次の留学終了後にも同様のガイダンスを実施して学生の学習を継続的に支援していく。</p> <p>(2)次のグレードへステップアップが難しい学生については、正規の授業内で解決できなかった問題に関しても各科目の担当教員が手厚く指導を行い、学生の学力向上を支援する。具体的には、教員が決められた時間帯にラーニングcommonsと呼ばれる学生ラウンジで待機して、学生の学習上の多様な問題に答えて助言及び指導をしていく。また、e-learningの施設(パソコンルーム)・設備(Wi-Fi環境)は校舎内に十分に準備されており、すべての学生が気軽に利用できる体制になっている。e-learningについては、校舎内のパソコンに語彙の学習ができるサイトやリスニングに役立つサイトがインストールされており、いつでも学習をサポートする環境にある。また、ベネッセコーポレーションAcademic English Training講座(1か月コース)を各学生に用意しており、留学直前に学習できるように準備している。</p>	<p>(1)次年度以降はESPに関する説明を学生便覧に記載する予定である。</p>

<p>設置時 (28年4月)</p>	<p>(3) 次のグレードクラスへステップアップできなかった学生に対し、英語力の高い職員を配置して学習方法のアドバイス、サポートを行うとしているが、効果的な学習指導を行うためには単に指導者の学力だけでなく、指導する上で適切な教授法を身につけていることが必要と思われる。職員による学習指導で十分な英語活用能力の向上効果が得られるか検証し、必要に応じて教員による学習指導を行うことを検討すること。</p>		<p>(3) 次のグレードクラスへステップアップできなかった学生に対しては、職員ではなく各科目担当教員が学習内容や学習方法に関して継続的に指導していく。教員が時間を設定して当該学生を個別に指導し、学習内容の理解度、課題の進捗状況、学習方法の改善等に関して細かく指導する。必要ならば当該学生と関わる他の教員と連携をとって学習向上を支援していく。</p>	
	<p>2. 完成年度前に、定年規定に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規定の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p> <p>○教養科目のうち英語で授業を行う科目が人文系社会系に偏っているが、学生が興味を持った分野の科目が幅広く英語で開講されていることが望ましいと考えられるので、検討すること。</p> <p>○社会調査について取り扱う「社会調査論」が追加されたが、その内容は「調査法」そのものを学ばせる内容になっていないので、さらにフィールドワークの入門的位置付けとなるような演習や実習を取り扱うことが望ましい。</p>	<p>留意事項</p> <p>その他意見</p> <p>その他意見</p>	<p>○教養科目の興味が人文・社会系以外にある学生については、留学先大学の受講指導に際して本学の開講科目と同一又は同一とみなされる履修内容の人文・社会系以外の科目を優先して履修するように案内及び指導を実施する。</p> <p>○フィールドワークに関する科目については、「社会調査論」を社会調査に関する概論的内容とし、「比較文化調査演習」を、調査法を実地で学ぶ入門的科目と位置づけている。これらの科目の内容を総合し、さらに発展させた科目が、より専門的なトピックを扱う「能登フィールド演習」と「金沢文化演習」であると位置づけている。</p>	<p>2. 任期満了後は、公募で退任者と同等の教育研究業績をもつ者の採用、または新学部及び既存学部の中堅・若手教員を人材育成して登用することを計画している。</p> <p>○配当年次が2年3クォーターのため、左記状況で不十分な場合は、自然系科目を中心として担当教員が手配できる場合は英語での開講を再検討する。</p>

<p>設置計画履行状況調査時 (29年2月)</p>	<p>人文学部国際文化学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>2年目の入試は、実質的な英語能力を評価できるよう外部の資格試験を導入し、設置の趣旨・目的を達成するための入試を実施した。志願者数は、実人数で3人減少する結果となった。合格ラインは、昨年度より上回る場所としたが、合格者の人数は、36人増え137人となった。入学者の確保を優先するという考えではなく、アドミッションポリシーに則した入学者確保の観点から入学定員の確保に努めたが、入学者は前年度から1人増えた37人とどまったが、入学者の学力レベルは向上していると言える。次の学生募集について、留学した学生による体験談や具体的な数値に基づいた語学力の伸びを示すことで、学習成果の周知を行い、志願者の量的拡大を実現する。</p>	
	<p>人文学部国際文化学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>任期満了後は、退職者と同等の教育研究業績の教育職員を採用する。あわせて人文学部及び既存学部の中堅若手教育職員を育成して登用することを計画している。</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<人文学部 国際文化学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 入学者選抜の選考方法 既存学部共通の国語、英語①に加え難易度の高い長文総合問題や英作文問題で構成する英語②を課すことで、高度な英語能力を判定する。</p> <p>② 学外実習の具体的計画 海外留学前の事前指導として、重点海外留学地域であるアジア地域において英語を公用語としていない国への留学を想定し、日常生活において支障のないように夏季休業期間を利用して約10週間の現地語ネイティブ教員による現地語を学ぶプログラムを整えている。</p>	<p>① 本学が指定する英語系資格等の取得者に対する優遇策を講じることで英語能力の高い志願者を獲得する。基準を満たす志願者には満点の1割を加算する。</p> <p>② 設置時の計画どおりアジア方面の留学を積極的に推進し、4名の学生がマレーシアの大学への留学が決まっていたが、マレーシアの大学から、突然のプログラム変更通知があった。留学予定の4名の学生は欧米圏に留学先を変更せざるを得なくなったため、平成28年度は英語を公用語としていない国への留学がなく現地語を学ぶプログラムは実施していない。アジア地域は、継続して重点海外留学地域とするため、平成29年度以降においても具体的計画として実施していく予定である。</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 国際文化学科会議としてFDを開催し、年間の会議日程に合わせて実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 人文学部の教授会は教養教育部会との合同教授会を毎月第一水曜日14:35～16:05に開催している。ただし、入試の時期は複数回開催している。病気、海外出張等の特別な理由がない限り全員参加した。国際文化学科会議は毎月第三水曜日14:35～16:05に開催している。FDとして実施する国際文化学科会議は、毎月第一水曜日10:35～12:05に開催している。いずれの会議も毎回ほとんどの教員が参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月始めに実施した1泊2日の新入生研修の実施方法や研修内容に関して ・ 学生による授業アンケートの実施と結果に関して ・ 留学に関するアンケートとその結果について ・ ゼミの指導内容に関して ・ 帰国後の指導方法に関して <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ESP科目（英語スキル系科目）に関する授業評価アンケートの実施 第1クォーター終了後に授業評価アンケートを行い、第2クォーター以降の授業改善に努めた。 ・ 次年度新入生研修について 初年度の新入生研修にはいくつか問題点があり、その改善に向け議論を重ねた。 ・ 新2年生対象「大学生活後半に向けたオリエンテーション」について 留学から帰国した学生が充実した大学生活を送ることができるように、また3年次から始まる専門教育について意識付けができるように、このオリエンテーションを開催することとなった。その内容について議論をした。 ・ 次年度基礎ゼミナールについて 初年度の基礎ゼミナールの授業における問題点を議論し、次年度の授業内容を改訂した。 <p>b 実施方法 学部長・学科長が問題となっている点を議題として設定し、学科長がFD会議を招集した。</p>

c 開催状況（教員の参加状況含む）

毎月第一水曜日を定例のFD会議とし、FDを開催した。そして、学部学科全教員が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

ゼミ担当教員の集まり、さらに科目担当別教員（英語、比較文化系）の集まりを不定期に持ち、学生の指導方法や授業運営の改善に取り組んだ。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1年をとおして、4回（5月下旬、7月下旬、11月上旬、1月下旬）実施している。5月下旬及び11月下旬は、セメスター科目の中間授業評価アンケートの方法に合わせて実施している。アンケートの回答は、学務システムにより行っている。回答は、学外からでも学務システムから回答することができる。

b 教員や学生への公開状況、方法等

学生及び教員に対して学務システムにより公開している。さかのぼって過去のアンケート結果を把握することができる。学生が履修登録をする際の参考としても利用することができる。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

初年度である平成28年度入試は、定員75名に対して総志願者は329名のうち入学者は36名（女子30名男子6名）であった。出願要件に英語資格等の保持を課しているが、初年度は経過措置として資格を有しない志願者にも受験を認めた。民間業者の資料によれば、入学者の偏差値は50.0であった。入学定員確保の観点から、平成29年度入試では推薦入試は資格保持の条件を課したが、それ以外の入試では資格保持を受験資格とはしなかった。ただし、資格保持者には配点の1割を加算するという措置を講じた。総志願者は305名、入学者は37名（女子27名男子10名）で、結果的に入学者確保の観点では平成28年度入試からの改善をはかることができなかった。平成30年度入試での入学者確保のために、人文学部の特化したチームを学内の教育職員と事務職員により結成する。チームでは、学生募集担当、広報担当、制度担当等の役割を持ち定員確保のための活動を行っていく。

また、新入生は国際英語力判定試験であるIELTSのレベルに応じてクラス分けされ、英語力向上に向けて英語学習に取り組んだ。第1期生が受験した第1回目のIELTS（6月）では、IELTS overall 4.0が1名、4.5が6名、5.0が21名、5.5が6名、6.0が2名、第2回目のIELTS（8月）では、4.5が5名、5.0が17名、5.5が13名、6.0が1名という結果となった。この結果から、ある程度の英語力の底上げはできたと思われるが、上位層の飛躍的な英語力アップは見られなかった（IELTS 5.5以上の保有率が6月から8月にかけて22%から39%へと少し上昇）。学生は、学力結果に応じて、学部留学、ブリッジコース、Academic English Course、語学研修に分けられた。

入学者が全員1年次に在籍中に早期留学をするという趣旨に沿って、36名の学生が平成29年1月より留学に出発。アイルランドの提携校に11名、オーストラリアに10名、カナダに8名、アメリカに3名、ニュージーランドに3名、ハンガリーに1名留学した。そのうち27名が第2クォーター開始日（6月14日）までに帰国。最長の学生は8月18日帰国予定である。当初の予定ではアジア方面の留学を積極的に進めていくはずであったが、留学を予定していたマレーシアの大学からの突然のプログラム変更の通知があり、留学を希望していた4名の学生は欧米圏に留学先を変更しなければならない状況となった。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成29年7月12日 公表

b 公表方法

・公表は、大学webサイト上で公開予定（平成29年7月12日を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・平成32年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、検討している。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 1日)